

環境対策とライフサイクルアセスメント的アプローチの現状について 石久保鈴子 ○中尾絵理子（東京家政大）

目的 近年、地球環境システムにおいて、持続可能な未来に向けた生産・消費活動への変革として、国際的枠組みのひとつである国際標準化機構（ISO）で、環境保全を目的とする環境対策に関する多くの項目が現在検討されている。その中でも地球温暖化、有害物質による環境汚染、廃棄物処理における社会的なシステムなどに係わる視点からの対策が必要である。また製品の設計段階における材料選択や部品設計更に使用方法や廃棄方法などにおいて、環境負荷を減らして行く配慮と、環境対策を含めた社会全体のコストを下げて行く思想とそれを現実化するための取り組みが必要になってくる。本研究では、環境改善のツールの一つとして注目されているライフサイクルアセスメント的手法（LCA）の活用方法等や各国の環境対策の現状を把握し、環境対策の手段の一つとしてのLCAの有効性およびその現状について、調査、分析し、今後の課題についても検討した。

方法 環境に係わる各機関、国際標準化機構（ISO）、環境関連情報機関などから得られた資料について分析した。

結果 それぞれの製品のライフサイクルからエネルギーと環境負荷を評価する、製品改良を目的としたLCAの利用は有効である。LCAの構成要素の一つであるインパクト評価は、環境に影響を与える因子や社会的影響が複雑なため現状では定量化は困難である。